

民具のミカタ・ワークショップ

[催し詳細・受付フォーム](#)


日 時：5月31日(土) 13:30～15:30
 会 場：武蔵野美術大学 鷹の台キャンパス 民俗資料室
 共 催：武蔵野美術大学 美術館・図書館
 参 加 費：維持会員・正会員 4,200 円
 上記以外の方 6,200 円
 募集人数：30名(先着順、最少催行人数18名)
 申込締切：4月30日(水)

- 維持会員・正会員の方は3月4日(火)、それ以外の方は3月11日(火)より受付開始。
- 正会員の方は同伴者1名まで会員価格で参加できます。

民具は、人々の暮らしの中で理にかなった造形として生み出されたものです。今春開催の特別展「民具のミカタ博覧会——見つけて、みつめて、知恵の素」展は、民具の素材や造形と、生活の中で育まれたデザインから、表現のヒントとなる“知恵の素”を見出すことを意図しています。

武蔵野美術大学 美術館・図書館の民俗資料室では、3月31日(月)より6月3日(火)までサテライト展「ヴァナキュラー・比較文化論—国立民族学博物館・特別展サテライト展示—」を開催します。「ヴァナキュラー比較文化論」をキーワードに、国内外の民具や神像、仮面等を展示し、期間中は民俗資料室の収蔵庫を公開しています。

今回の体験セミナーでは、同大学の民俗資料室ギャラリーを訪問し、学芸員課程の学生さんたちが企画したワークショップをとおして、民具のミカタを深め、その魅力に迫ります。



武蔵野美術大学 美術館・図書館 民俗資料室外観
 撮影：加藤幸治、2022年



民俗資料室収蔵庫の様子
 撮影：加藤幸治、2022年

実施内容

本ワークショップは、ギャラリーでの展示と収蔵庫を会場に、民具をじっくり観察(熟覧)しながらスケッチする「ムサビミングスケッチ」を行いながら、その造形的な面白さ、デザイン性など、それぞれが新たに気づいた民具の魅力を参加者同士で互いに共有するイベントです。

企画は、美術やデザインを学びながら学芸員資格取得をめざすムサビの学生さんたちです。絵を描く経験が全く無くても子どもから大人まで楽しめますので、幅広い世代の方にご参加いただけます。美大生とともに楽しみながら、民俗資料の魅力を見つけて、みつめて、“知恵の素”を探りましょう。



「美大生と共に民具をスケッチ」
 撮影：加藤幸治、2022年



「参加者のミカタを共有する」
 撮影：加藤幸治、2022年

13:30 武蔵野美術大学正門集合
 13:35～ 全体説明
 14:00～ ギャラリー見学と収蔵庫見学の2グループに分かれてワークショップ
 15:00～ 共有と対話、質疑応答
 15:30 解散

講師

◆加藤 幸治

武蔵野美術大学教養文化・学芸員課程教授、同美術館・図書館 副館長。みんぱく創設50周年記念特別展「民具のミカタ博覧会——見つけて、みつめて、知恵の素」実行委員。専門は民俗学(民具研究)、博物館学。博士(文学)。主な著書に、『民俗学 パブリック編 みずから学び、実践する』(武蔵野美術大学出版局、2025年)、『渋沢敬三とアチック・ミュージアム：知の共鳴が創り上げた人文学の理想郷』(勉誠出版、2020年)他、監修書に『民具のデザイン図鑑』(誠文堂新光社、2022年)など多数。

◆武蔵野美術大学学芸員課程履修生

会場

武蔵野美術大学 鷹の台キャンパス 13号館 2階
 民俗資料室ギャラリー
 東京都小平市小川町1丁目736
<https://mauml.musabi.ac.jp/museum/guide/>

交通案内(2025年2月現在のダイヤです)

- JR国分寺駅から西武バス「武蔵野美術大学」行、「国分寺駅北口」12:59発、「武蔵野美術大学正門」13:22着
- 西武国分寺線(東村山行)「鷹の台」駅下車、徒歩約20分
- JR立川駅から立川バス「武蔵野美術大学」行、「立川駅北口」13:00発、「武蔵野美術大学」13:28着、正門まで徒歩2分

■サテライト展「ヴァナキュラー・比較文化論—国立民族学博物館・特別展サテライト展示—」展示資料について

1970年大阪万博に先立ち、EEM(日本万国博覧会世界民族資料調査収集团)が世界各国で収集した資料は、太陽の塔内部の「地底の太陽」とともに展示され、国立民族学博物館に収蔵されました。また、高度経済成長期の日本において、日本観光文化研究所が全国規模で収集した国内最大規模の民俗資料は本学に収蔵されました。世界へ向けられた異文化へのまなざしと、日本列島の文化の多様さへのまなざしを、同時代の2つのコレクションは宿しています。

今回の展示は、共催企画である国立民族学博物館の創設50周年記念特別展「民具のミカタ博覧会——見つけて、みつめて、知恵の素」のサテライト展示として開催されます。EEMからタンザニアのマコンデ高原に住んでいたマコンデの人びとによる彫像を展示し、そこに武蔵野美術大学が所蔵するパプアニューギニアの神像などの海外資料、日本の民俗資料を組み合わせ展示されています。